コミュニティ・スクール新聞

発行所
藤中学区
学校運営協議会 事務局

令和4年度第1回藤中学区学校運営協議会開かれる

令和4年5月30日、藤中学区の第1回学校運営協議会が開かれました。当日は藤枝中学校を会場として、本年度委員になられた方々による授業参観から始まりました。

本年度学校運営協議会委員になられた方々は21名。学区の学校長、自治会代表者、PTA会長、地区交流センター長、地域代表者、コミュニティ・スクールディレクター2名が委員として教育委員会より委嘱されました。

会長・副会長の選出

会長には自治会藤枝支部長の工藤道夫氏、副会長には自治会藤枝支部副会長の田口敏一氏が選出されました。共に昨年度の二人が再任されました。

主な協議内容

①藤枝中学校区小中一貫教育、コミュニティ・スクールについて

コミュニティ・スクールディレクターから、昨年度の成果として『にこにこあいさつ運動』や『中学生による小学校でのあいさつ運動』などの活動報告が行われました。

②令和4年度学校経営方針について

各小・中学校長から、それぞれの学校のグランドデザインをもとに、経営方針や児童生徒の様子等の説明がありました。

③コミュニティ・スクールの今後の活動について

ディレクターから
「学校サポータークラブの活性化」
「藤枝中学校の中庭整備等に地域の協力を得ること」
「郷土の日の活用」
「ふるさと学習（総合的な学習の時間）の推進」
「放課後学習支援（地域寺子屋）事業について調査研究」についての提案がありました。

その他全体を通しての意見

・中学校部活動の地域移行について

藤枝中小林校長より「藤枝中学校では、男子テニス、サッカー、剣道、吹奏楽部などに外部指導者が入っている。吹奏楽部には部活動指導員も入っていて、教員をフォローする体制ができている。ただ、受け皿がない状態では地域移行できないため、国が進める令和5年度からのスタートは現在の状況では厳しいかもしれない。」との説明がありました。

・当日の授業参観で感じたこと

「学校運営の成果は子どもの姿がすべて。落ち着いた学習の様子を見て安心した。」
「教材提示装置（ICT機器）を使用している授業が多く、先進的に授業が行われていることに感心した。一方で、機器を使用することによるマイナス面も忘れてはならない。」との意見がありました。

・昨年度のアンケートの活かし方について

「昨年度は第3回学校運営協議会がコロナ禍で紙上開催となり、委員からアンケートをとったが、その後アンケートの結果についての報告がない。どういう活用をしているのか。」との意見があり、後日委員の皆様に結果をお届けする予定です。

・家庭・地域・学校のコミュニケーションについて

「国が子ども家庭庁や子ども基本法を整備中であり、保護者には教育基本法第10条にある、子の教育について第一義的責任は保護者（家庭）にあることを改めて考えてほしい。いろいろな事業について、家庭・地域・学校がコミュニケーションをとりながら子どもたちを育てていきたい。」との意見がありました。

あたたかい眼差しに見守られながら

5月25日のあいさつ運動の様子

ふるさとの先達！

常葉大学教授　堀井　啓幸

大学を卒業したら戻ってくるつもりが大学教員になり、結局、東京、富山、山梨にある学校に勤めて、やっと9年前に自宅から通えるようになりました。それぞれの地域にそれぞれの良さがあり、教育にもこれが正解ということはないと学びました。ただ、どこに住んでも、静岡出身であることがわかると、「暖かくて豊かでいいところですね、住みたいです。」と言われました。

ふるさと藤枝はとてもいいところだと実感しています。小中学生の頃、うつむきながら歩いていると近所のおじちゃん、おばちゃんに何気に声をかけてもらい、温かなまなざしに助けられました。今こそ、そんなまなざしをたくさん作って、ふるさとの良さを再発見できるようにする活動が求められています。